

# 武蔵国分寺跡資料館だより

Musashi Kokubunji Temple Remains Museum Newsletter

編集・発行・印刷

見る / 学ぶ / 訪ねる /

武蔵国分寺跡資料館

Musashi Kokubunji Temple Remains Museum

[住所] 〒185-0023 東京都国分寺市西元町1-13-10

[電話] 042-323-4103 [FAX] 042-300-0091

[E-mail] museum@city.kokubunji.tokyo.jp

[HPアドレス]

http://www.city.kokubunji.tokyo.jp/shisetsu/kouen/1005196/1004239.html

2017.8  
第31号



## 平成 29 年度史跡武蔵国分寺跡史跡整備工事がはじまります

国指定史跡武蔵国分寺跡保存整備事業として、平成 29 年度から僧寺金堂跡周辺の整備を 2 力年計画で予定し、今年度は金堂跡の基壇復元工事に着手します。僧寺金堂は明治 36 年（1903）・大正 11 年（1922）に実地踏査が行われた後、昭和 31 年から平成 24 年まで断続的に発掘調査が実施されました。この長年にわたる調査で建物平面や基壇の規模・構造などが判明しています。

復元する基壇は乱石積基壇とし、南北面に階段を設置して周囲に雨落施設である石敷を巡らせます。基壇上面は現存する礎石をみせつつ、失われた礎石を補完して建物を平面表示し、床面には塼を敷き、須弥壇を立体的に復元します。



金堂跡（大正 11 年）



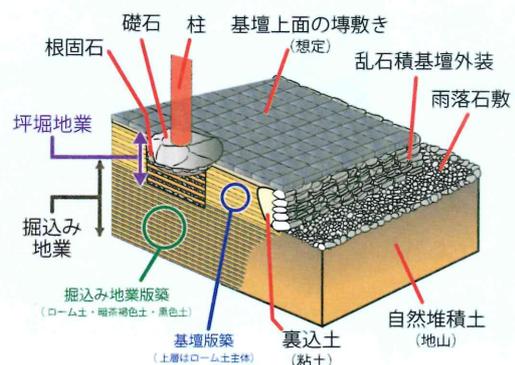
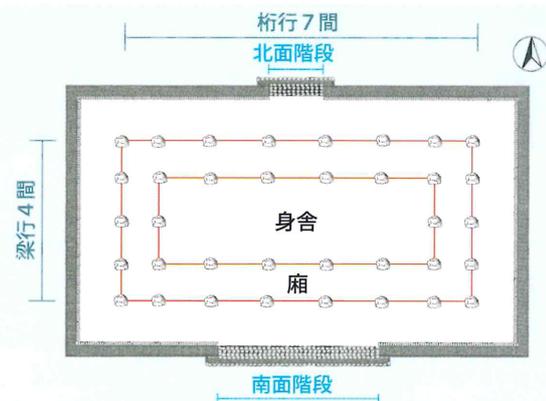
金堂跡・史跡指定標柱（現在）



金堂北面階段（北から）



金堂礎石（北西から）



金堂模式図（上：平面、下：基礎構造）

平成 28 年度の国史跡武蔵国分寺跡保存整備事業として、中門・金堂間に宗教儀礼の際に装飾として用いる幡を吊り下げる幢竿（竿柱）を立体表示しました。

「幡」とは、平安時代承平年間（931～938）成立の『倭名類聚抄』では「波太」とし「はた」と呼び、旗の一種です。寺院の荘厳のために仏殿の柱や天蓋あるいは法要を行う庭（儀礼空間）などに立てた幢竿に吊り下げられます。

古くは、欽明天皇 13 年（552）の我が国への仏教公伝の記事（『日本書紀』）に、百済の聖明王から献じられた金堂釈迦像や経論とともに「幡蓋」がみえ、また、推古天皇 31 年（623）には新羅と任那より、仏像・金塔・舍利とともに「大灌頂幡一具、小幡十二条」が献じられ四天王寺（大阪府）に納められたと記されています（『日本書紀』）。このように幡は、日本に仏教が伝来した初期に荘厳具として中国から朝鮮半島の百済・新羅・任那などを経てもたらされたと考えられます。

国分寺が建立された奈良時代の幡としては、正倉院宝物中に天平勝宝 4 年（752）の大仏（慮舎那仏）の開眼会や天平勝宝 9 年（757）の聖武太上天皇一周忌齋会（僧尼を集めて齋食を供する法会）で使用されたものなど残欠を含め 1,000 点を超える遺品が伝わっています。

幡の形状は、三角形の幡頭に長方形の幡身をもち、幡身の左右に出した幡手、身部の下端から数条の幡足を垂

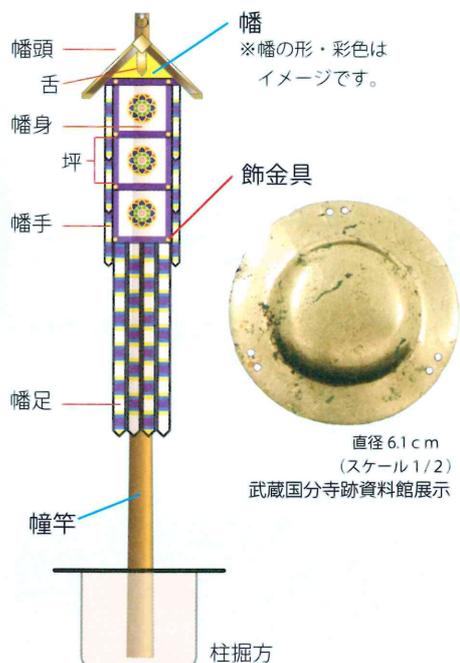


僧寺中門・金堂間幢竿立体表示（南から）

らすというもので、幡頭には舌を伴うものがあり、また幡身はいくつかの坪に区画されます。素材は、錦・綾・絹などの裂製や金銅製などがあり、大きさは聖武太上天皇一周忌齋会所用の幡には 6.4m や 3m 前後のもの、中には 17.8m に達する錦・綾製の残欠などがみられます。

武蔵国分寺で使用された幡がどのようなものであったかは不明です。武蔵国分寺の幡に関連する資料としては、金銅製円形飾金具（市重要有形文化財、武蔵国分寺跡資料館常設展示）が出土しています。法隆寺宝物中の幡に装着された飾金具と類似していることから、幡の飾金具と想定されます。周縁部の 3ヶ所にある 2つセットの小さな穴に糸をとおし、幡に縫い付けたと考えられます。

一般的に法会は仏堂内部で行うものと仏堂の前庭を用いて行う庭儀の二種類がありますが、庭儀法会では前庭に舞台や高座・礼盤（礼拝読経するための仏前の高座）を設置し、法要や法楽の芸能（舞楽など）の場となり、この前庭の空間内や周囲を荘厳するために幡が飾られます。『東大寺要録』に堂の中は、種々の造花や美妙なる繡幡で荘厳し、堂の上から種々の花を散らし、東西には繡の灌頂幡を懸け、八方に五色の灌頂幡を懸けているとあり、天平勝宝 4 年の大仏開眼会における幡による荘厳を伝えています。また、天平勝宝 8 年（756）12 月には、越後・丹波・丹後・但馬・因幡・伯耆・出雲・石見・美作・備前・備中・備後・安芸・周防・長門・紀伊・阿波・讃岐・伊予・土佐・筑後・肥前・肥後・豊前・豊後・日向など 26ヶ国に国毎に灌頂幡一具・道場幡四十九首などを聖武太上天皇一周忌齋会の装飾にあてるためにわかち下し、使用後は国分僧寺に収めて永く寺物とし、事あれば出して用いさせるとの記事が『続日本紀』にみられます。これにより東大寺をはじめ各地の国分寺において一周忌齋会には幡による荘厳が計られていることがわかります。しかしながら、当時の幡による荘厳のあり方は必ずしもよくわかっ



幡と幢竿

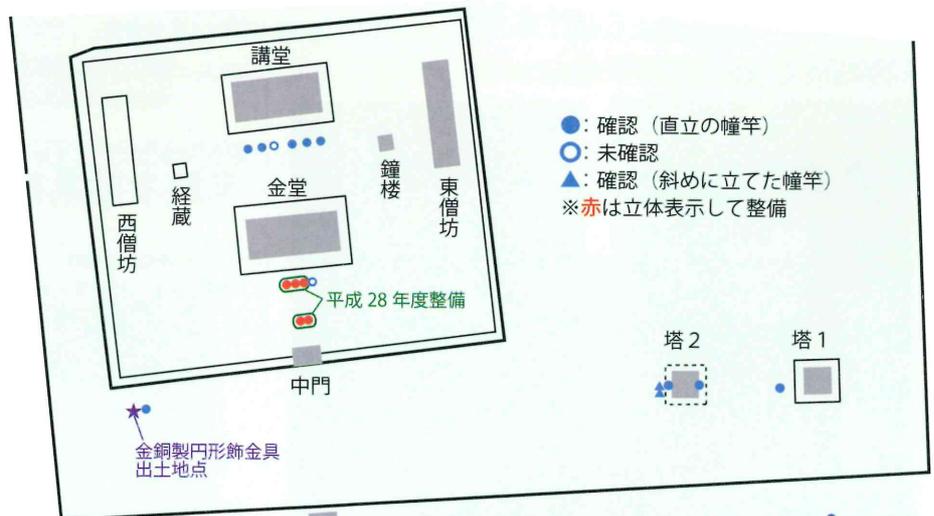
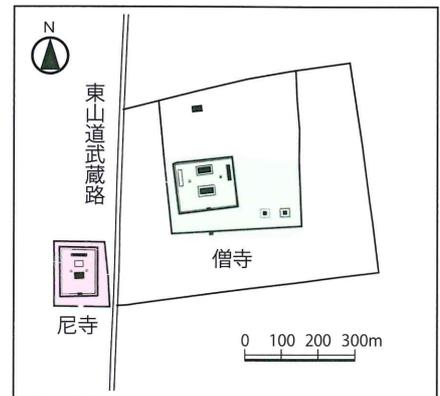
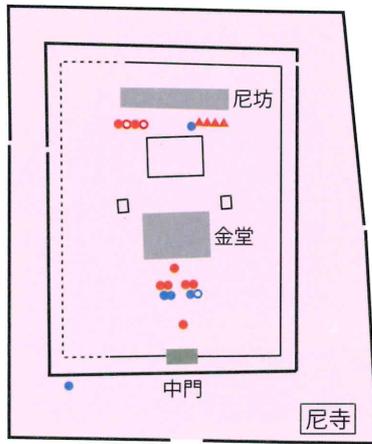
ておらず、実態を知る上では、発掘調査によって得られる幢竿遺構の情報が重要となります。

武蔵国分寺跡における幢竿と想定される痕跡（柱穴跡）は、発掘調査によって平成 28 年度に整備工事が完了した僧寺中門・金堂間の南側 2 基、北側推定 4 基（東端は道路上にて未調査）のほかに、僧寺講堂、尼寺金堂・尼坊など主要建物の前面に伽藍中軸線を挟んで左右対称に設置されたものや、僧尼寺中樞部区画施設南西コーナー付近、七重塔周辺に塔と関係が想定される幢竿など、合わせて 40 基ほど確認されています。

全国各地の発掘調査事例から幢竿の形態は、A：主柱のみ 1 本柱のもの、B：主柱と 2 本の支柱が一つの掘方（柱を据付けるための掘り穴）内にあるもの、C：主柱の痕跡はなく、2 本の支柱が一つの掘方内にあるもの、D：主柱の痕跡はなく、別の掘方の支柱が 2 本一対で並ぶものに大別されます。

武蔵国分寺跡ではほとんどが A 類と想定され、基本的に 1 本の幢竿を直立させます。中には斜めに立てた珍しい幢竿も確認され、僧寺塔 2 西側では西向き、尼寺尼坊前面の東側では南向きに約 50 度傾けています。

今回新たに整備した僧寺中門・金堂間の幢竿の他に、市立歴史公園武蔵国分尼寺跡でも金堂や尼坊前面に計 14 基の幢竿を立体表示し、尼寺金堂前面のうち 4 本は 3m 前後の幡を掲げること想定して高さ 3.7m の幢竿を復元しています。史跡を訪れた際には主要堂塔の跡とともに、正倉院宝物に伝わるような夾纈（文様を彫った 2 枚の板の間に折り畳んだ布を挟み、文様の部分にあなをあけて染料を注いで染める）・臈纈（布に蠟で文様を描き、染液中に浸したあとで蠟を取り除くもの）などの奈良時代に盛行した染色、錦・綾・羅・平絹など各種の裂、刺繍や縫継などを駆使し荘厳華麗なつくりの幡がたなびく当時の風景を想像しながらご覧いただけると幸いです。（中道 誠）



幢竿と推定される遺構配置概略図



尼寺中門・金堂間幢竿立体表示（南から）



僧寺中門・金堂間法会イメージイラスト（大塚敦子）

武蔵国分寺跡資料館巡回ミニ展示



武蔵国分寺跡資料館で行った平成28年度秋季企画展『幻の赤米—国分寺の稲作について—』の巡回ミニ展示を開催しています。「赤米」の発見や市内での復活の状況を展示していますのでこの機会にぜひご覧ください。

【展示期間】平成29年5月25日（金）～

【観覧時間】駅ビルの休館日、元日を除く毎日 午前9時から午後10時まで

【展示場所】国分寺Lホールショーウィンドウ（国分寺市南町3-20-3 駅ビル8階）

幻の赤米  
—国分寺の稲作について—



巡回ミニ展示風景

おたかの道湧水園 Photo



湧水園内で栽培している「大賀ハス」(古代ハス)が開花しました(8月9日撮影)



平成29年度から実験栽培している「赤米」(古代米)の穂が出始めました(8月12日撮影)

来館者数

2009年10月18日～2017年7月末日

来館者数累計 108,306名

【5月～7月の学校見学】

(学年)、(人数)、中=中学生、高=高校生、大=大学生、院=大学院生

<市内>

第一小学校[小6](68)、第三小学校[小6](135)、第六小学校[小6](95)、第七小学校[小3](85)、第九小学校[小6](89)、早稲田実業学校中等部(274)

<市外>

かわさき市民アカデミー(25)、立川女子高等学校[高3](30)、成蹊小学校[小6](126)、小金井市立第四小学校[小6](87)、小金井市立本町小学校[小6](62)、専修大学[大1](210)、駒澤大学(38)、国士館大学(26)、鹿島学園高等学校(17)、帝京大学[大3年](6)、東京電機大学中学高等学校(7)

月	来館者数	開館日数
5	1,344	26
6	1,131	26
7	563	26
計	3,038	78

○来館者数は、おたかの道湧水園の入園者数

多くのご来館ありがとうございました

武蔵国分寺跡資料館ご利用案内



交通のご案内

【電車】JR国分寺駅下車／徒歩約20分 JR西国分寺駅下車／徒歩約15分

【バス】国分寺市循環バス『ぶんバス』万葉・けやきルート「史跡武蔵国分寺跡」下車／徒歩約8分

○国分寺市循環バス『ぶんバス』日吉町ルート「泉町一丁目」下車／徒歩約8分

○国分寺駅南口より『京王バス』系統番号(寺83)・(寺85)乗車「泉町一丁目」下車／徒歩約8分

■開館時間

午前9時～午後5時(入館は午後4時45分まで)

■休館日

毎週月曜日(祝日・振替休日の場合はその翌日)

年末年始(12月29日から1月3日まで)

※展示替えなどで臨時休館することがあります。

■入園料

資料館に入館するには「おたかの道湧水園」への入園料が必要になります。(入園券は史跡の駅で販売)

一般……………100円(年間パスポート1,000円)

中学生以下……………無料

【入園料の減免規則があります】

- 学校の教育活動で生徒(中学生を除く)、学生及び引率の教職員が入園するとき【事前(5日前まで)に減免申請書の提出が必要です。】
  - 身体障害者及びその介護者が入園するとき【発券窓口の史跡の駅で身体障害者手帳等の提示が必要です。】
  - その他教育長が特別の理由があると認めるとき【事前(5日前まで)に減免申請書の提出が必要です。】
- ※減免申請書は、国分寺市のホームページからダウンロードできます。



ホームページQRコード